

【質問】ラスビック点滴静注との相互作用に気をつけるべき薬剤は？

【回答】

ラスビック点滴静注キット 150mg の有効成分であるラスクフロキサシンは CYP3A4 の基質であり、CYP2C8 に対して阻害作用を示します。

添付文書では、本剤の使用に際して「併用してはいけない薬剤」及び「併用に注意すべき薬剤」として、以下のとおり記載されています。

【併用禁忌（併用しないこと）】

●クラス I A 抗不整脈薬

キニジン、プロカインアミド（アミサリン）等

クラス III 抗不整脈薬

アミオダロン（アンカロン）、ソタロール（ソタコール）等

〔本剤を併用した場合、相加的な QT 延長がみられるおそれがあり、心室頻拍（Torsades de pointes を含む）、QT 延長を起こすことがある。〕

【併用注意（併用に注意すること）】

●チアジド系利尿剤、ループ系利尿剤、糖質副腎皮質ホルモン剤、ACTH、グリチルリチン製剤

〔低カリウム血症のある患者に本剤を投与した場合、心室頻拍（Torsades de pointes を含む）、QT 延長を起こすことがある。〕

●フェニル酢酸系、プロピオン酸系非ステロイド性消炎鎮痛剤

フルルビプロフェン等

〔痙攣を起こすおそれがある。症状が認められた場合、両剤の投与を中止するなど適切な処置を行うこと。〕

●リファンピシン、フェニトイン、カルバマゼピン

〔本剤の作用が減弱する可能性がある。〕

●テオフィリン、アミノフィリン水和物

〔テオフィリンの作用を増強させるおそれがあるので、併用する場合にはテオフィリンを減量するなど適切な処置を行うこと。〕

●レパグリニド

〔レパグリニドの血中濃度が上昇し、レパグリニドの副作用が発現するおそれがある。〕

●副腎皮質ホルモン剤（経口剤及び注射剤）

プレドニゾロン、ヒドロコルチゾン等

〔腱障害のリスクが増大するとの報告がある。これらの薬剤との併用は、治療上の有益性が危険性を上回る場合のみとすること。〕

出典：添付文書